

本校における副籍および分教室研究の取組

滋賀県立三雲養護学校

校長 嘉瀬 英紀

教諭 西堀 悠里

滋賀県立三雲養護学校

小学部

中学部

高等部

紫香楽校舎

石部分教室

昭和51年4月 県立石部養護学校として開校
昭和54年4月 学校の移転（湖南省柑子袋）に伴い、
県立三雲養護学校と改称
昭和60年3月 紫香楽病院（信楽町牧）横に紫香楽校舎完成
平成25年4月 石部高等学校内に石部分教室を開設

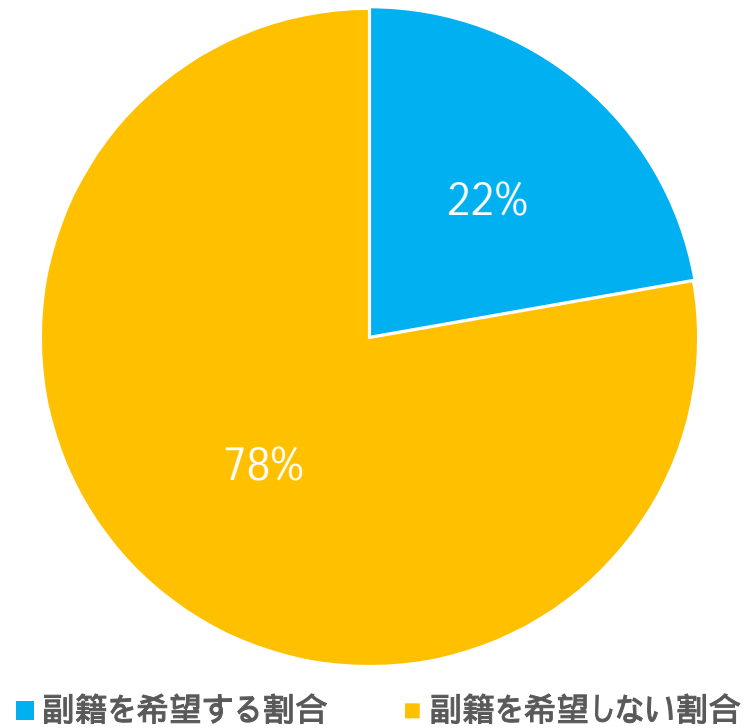
小学部	99名
中学部	62名
高等部	83名
紫香楽校舎	13名
石部分教室	78名
全校生徒	335名

（R4.5.1現在）

知的障害や肢体不自由のある児童生徒が甲賀市や湖南省から通学しています。
学校の近くには近江学園があり、学園の入所者も通っています。

1 . 本校における副籍の取組状況

本校における副籍の取組状況（令和4年度）



1 . 本校における副籍の取組状況

交流授業実施回数

- 直接的な交流：のべ47回（3学期実施予定を含む）
 - ・ 1年生は、2学期からの実施で、最大2回。
 - ・ 2年生以上は、多くても年間3回（学期に1回）。

- 間接的な交流
 - ・ 在籍校より月1回の通信発行。

2. 取組事例

事前学習（副籍校への出前授業）

■ 養護学校クイズ

バスは何台あるでしょう？

- ① 1台
- ② 6台
- ③ 12台



■ 児童の紹介

がんばっていることは？



おねがいがあります



2 . 取組事例

在籍校の「はじまりの歌」を取り入れた交流授業

	在籍校（三雲養護学校）児童	副籍校（小学校）児童
交流授業の目標	教師や友だちと一緒にいろいろな活動を経験し、人と関わる楽しさを実感する。	一人ひとりの違いを理解し、やさしい気持ちをもって仲良く活動することができる。
教科	せいかつ	生活科
ねらい	教師を支えに、周りの友だちと一緒に楽しいひと時を過ごす。	一人ひとりの違いを理解し、やさしい気持ちをもって仲良く活動することができる。
学習活動	・一緒に歌おう（「ともタッチ」「さんぽ」） ・一緒にあそぼう（しっぽとり）	

（事前学習）

- ・毎日の朝の会で「ともタッチ」の歌に親しんだ。
- ・週1回のわくわくタイム（遊びの指導）の時間に「さんぽ」の曲で歩いた。

2 . 取組事例

在籍校の「はじまりの歌」を取り入れた交流授業



2. 取組事例

在籍校の「はじまりの歌」を取り入れた交流授業

	在籍校（三雲養護学校）児童	副籍校（小学校）児童
評価	<ul style="list-style-type: none">・着席したものの落ち着かず、緊張する姿が見られた。・「ともタッチ」の歌は、毎日聞いて知っている曲だったため、安心して落ち着くことができた。・「さんぽ」の曲で、みんなと歩くことは、嬉しそうではっとしてはしゃぐ姿も見られた。また、友だちの輪に入って一緒に歩くこともあった。	<ul style="list-style-type: none">・保育園で一緒だった児童は、久しぶりに会えることを楽しみにしていた。・「ともタッチ」の歌では、自分から手を出し、全員が在籍校児童とタッチした。 <p>* 養護学校からCDを事前にもらい、歌を聞いていた。</p>



「ともタッチ」を交流授業のテーマ曲に

3 . 児童の声や様子（担任や保護者より）

4年生男児

担任	保護者
活動中は笑顔で活動することができ、活動が終わった時には「楽しかった」と教師に伝えることができた。	（交流授業後に、対象児童を囲み「サイン会」になった。） 帰宅後、本人も「ビックリしたなあ」と言いながらも嬉しそうに振り返っていました。

1年生女児

担任	保護者
教師からの働きかけを受けて、自分から粘土を触ることができた。はじめは右手だけで触っていたが、次第に左手でも触ることができるようになった。粘土を触る力もだんだん強くなり、感触をじっくりと味わう様子が見られた。	帰宅してから、授業で使った黄色とピンクの粘土で夕方まで夢中になって遊んでいました。とても楽しかったみたいです。

3 . 児童の声や様子（担任や保護者より）

4年生女兒

担任	保護者
曲を聴いて感じたことを、教師を介して班の友だちに伝えることができた。いつも聴く曲とは違う曲だったが、楽しむことができた。	今回も本人が楽しめる音楽の授業で良かった。何よりも本人が「楽しかった」と言っていることがうれしい。

1年生女兒

担任	保護者
初めての環境だったが、自分の好きな活動（歌や踊り）を支えに友だちと一緒に活動を楽しむことができた。	本人は楽しかったみたいです。家でもやまびこの歌を歌って聞かせてくれました。

4 . 交流授業後の保護者の感想

- 交流授業当日は、みんなが優しく接してくれ、本人も「みんなといること」を楽しんでいた。
- （副籍校児童が）休み時間も本人の席を囲んで楽しんでくれた。
- 休み時間も校庭に行き、普段味わえない大勢での活動経験ができてよかった。
- （子ども同士の）やりとりが懐かしくて私も思い出に浸っていました。
- 小学校の子がしていることをよく見ていて、本人によい刺激になったと思う。次回の交流も楽しみ。

- 短い時間なので慣れる頃に終わってしまい、なかなか友だちと話す機会が少ない。
- 給食などをはさんで少しでも長く実施できたらと思う。
- 本人の興味がある授業を選んでもらっているが、クラスの子どもたちが興味がない授業にならないか心配。
- 「お客さん」状態になってしまう。こちらからも働きかけられるような取組ができれば。

5 . 小学校に籍がある児童の副籍の取組

主たる学籍
小学校

副籍
特別支援学校

甲賀市立 A 小学校

- ・ 小学 3 年生
- ・ 肢体不自由

取組の経過

日付	取組	場所	出席者	取組内容
5/2	内諾	三雲養護学校	<ul style="list-style-type: none"> ・甲賀市教委：課長補佐 ・A小学校：教頭、担任 ・三雲：校長、教頭、小低部主事、教相部長、副籍Co. 	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍校児童の実態 ・保護者の思い ・在籍校の思い ・交流回数、時期
6/17	クラス会	三雲養護学校	<ul style="list-style-type: none"> ・該当クラス担任、副籍Co. 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流時期 ・学習活動
8/5	顔合わせ	三雲養護学校	<ul style="list-style-type: none"> ・三雲：該当クラス担任、副籍Co. ・A小学校：担任 	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍校児童の実態 ・年間交流授業計画 ・学習活動
10/11	事前打ち合わせ	A小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・三雲：該当クラス担任、副籍Co. ・A小学校：担任 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の検討 ・間接交流
10/25	第1回 交流授業	三雲養護学校	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍校児童の体調不良により中止 	<ul style="list-style-type: none"> →朝の会（自己紹介） →自立活動（自活専任と）
11/25	間接交流			在籍校児童から副籍学級へ運動会新聞
1/19	第2回 交流授業	三雲養護学校		【予定】 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会（自己紹介） ・自立活動（自活専任と） ・遊びの指導（はないちもんめ）

交流授業の目標

在籍校（小学校）児童	副籍校（三雲養護学校）児童
<ul style="list-style-type: none">・初めての場所や友だちに慣れ、楽しく活動できる。・初めてのことにも挑戦してみようという気持ちを持ち、意欲的に活動する。	<ul style="list-style-type: none">・新しい友だちと一緒に活動する。・学習の中で様々なことを経験し、興味関心を広げ、意欲的に活動する。



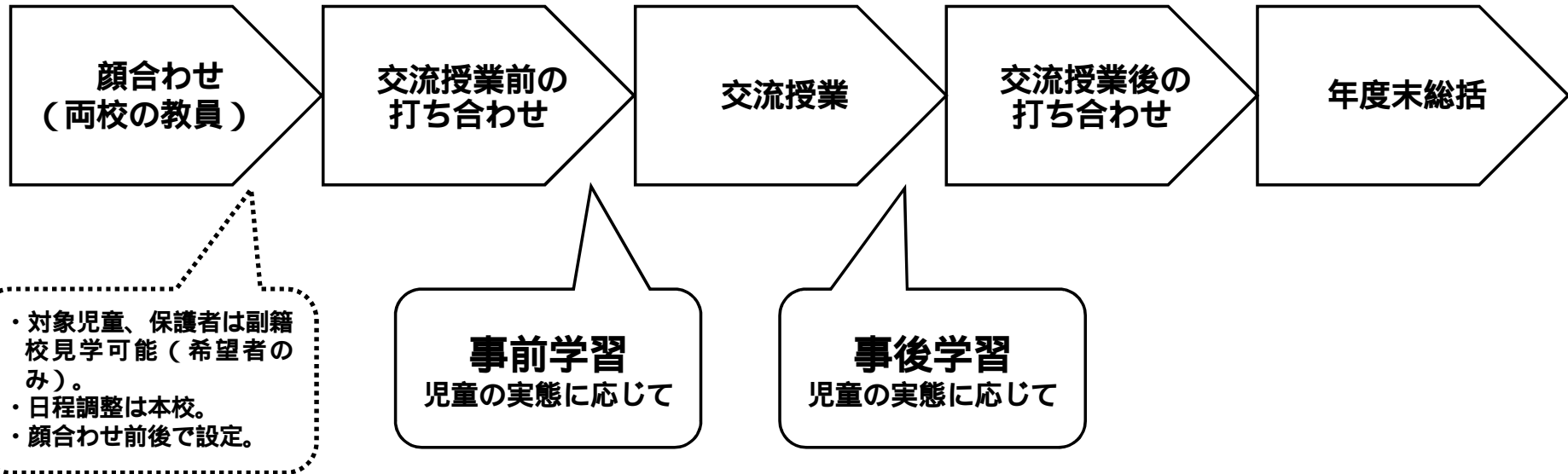
「教育的ニーズに応じたきめ細かな支援や、専門的な指導を受ける機会を確保するため」だけでなく、「集団で活動したい」というニーズ



肢体不自由児クラスではなく、認知発達課題が近いクラスに副籍を設定

6 . 持続可能な取組とするための工夫

年間スケジュールのイメージ共有



6 . 持続可能な取組とするための工夫

交流授業の見通しの共有化

■ 交流授業年間計画シートの活用

- 交流授業の実施時期や学習活動等を顔合わせの際に計画立案。
- 在籍校、副籍校の双方が交流授業に意識を向けられる。

【交流授業年間計画シート】

対象児童	氏名（ ）小低・小高（ ）組		
在籍校担任名			
副籍校名	市立	小学校	年 組
副籍校担任名			

【直接交流計画】

	交流時期	打ち合わせ時期	教科		学習活動
			在籍校	副籍校	
①		【事前】			
		【事後】			
②		【事前】			
		【事後】			
③		【事前】			
		【事後】			

【間接交流計画】

【遠隔交流計画】

6 . 持続可能な取組とするための工夫

交流授業後の打ち合わせの充実

■ 事前・事後打ち合わせシートの活用

- ・ 在籍校、副籍校が、相互の教育的効果を実感する手立てとして活用。

事後打ち合わせ	令和 年 月 日 () 出席者 ()	
	対象児童	副籍校児童
⑧評価・課題		

【事前・事後打ち合わせシート】

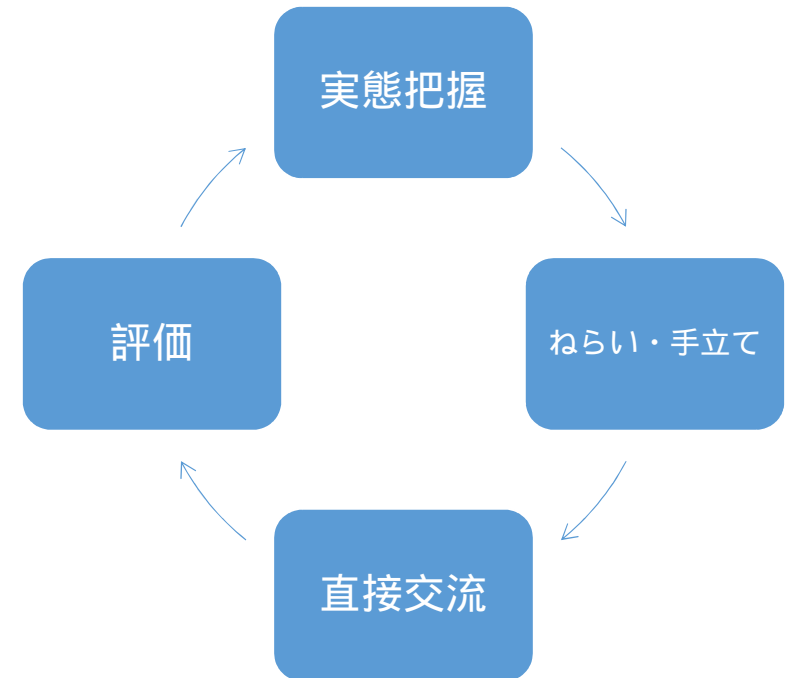
令和 年度 第 回 交流授業		
対象児童名		
副籍校名	在籍校	副籍校
交流日	令和 年 月 日 ()	時間 (時 - 時)
事後打ち合わせ	令和 年 月 日 () 出席者 ()	
	対象児童	副籍校児童
(1)交流授業の目標		
(2)教科名		
(3)実施のゆえい		
(4)学習目的		
(5)手立て		
(6)評価の観点		
(7)その他		
事後打ち合わせ	令和 年 月 日 () 出席者 ()	
	対象児童	副籍校児童
(8)評価・課題		

7 . 副籍の取組から見えたもの

双方の児童を理解する機会としての副籍

■同一授業で複数目標・評価の導入

- ・双方の教員が双方の児童について話し合い、互いの児童の指導上の観点を意識できること。
- ・在籍校児童の実態を踏まえた児童の学びとなる交流授業を経て、同じ授業でもそれぞれの学びになること。
- ・双方の児童に焦点をあてた授業づくり



8 . 副籍の取組、今後に向けて

児童の卒業後の姿を見通し、長期的な目標をもって、交流授業をどのように位置づけるのかといった視点が必要。

障害のある子も、障害のない子も、その学びがより確かになるための、交流授業の一層の深まりが必要。

特別支援学校、小学校、双方の教員が、お互いの児童について話し合い、理解しようとする意識を深めていくことが必要。

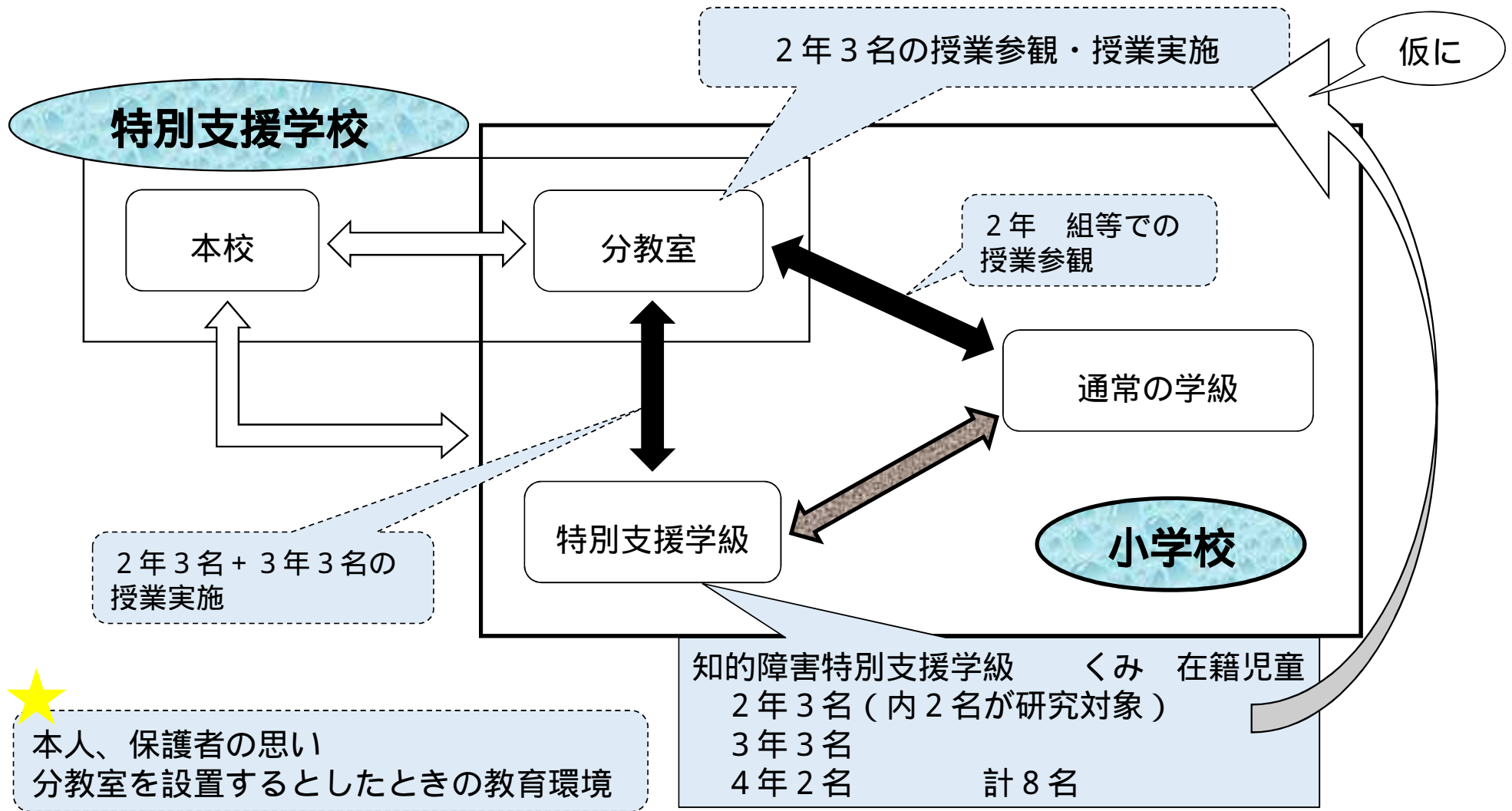
本校での分教室研究について（H30～R1）

研究の目的

- ・ 特別支援学校から通学区域の小学校への支援を充実させる方策を探る。
- ・ インクルーシブ教育システムの構築に向け、障害のある子が地域で共に学ぶ支援体制の充実を図る。

研究の内容

- ・ 対象児童の実態に合った指導・支援の検討
多様な集団
「分教室」（授業実践：支援学級担任、研究担当）
特別支援学級（授業実践：研究担当）
通常の学級...交流学級、交流学年 等
- ・ 分教室設置のための検討すべき事項の整理



分教室設置研究から得られたこと

分教室児童への指導・支援のあり方の検討を通して、小学校教員が、小学校に在籍する障害のある児童への合理的配慮について考えを巡らせる機会を新たに得ることができた。

分教室の教育課程の特徴は、小学校との交流及び共同学習にある。意義ある交流及び共同学習のあり方を検討し続けることが必要。

教員全体の特別支援教育への意識を高めることが大切であり、各学びの場の教員同士の連携強化が必須。

分教室設置研究から得られたこと

小学校に分教室が設置されれば、1つの学校に、通常の学級、特別支援学級、特別支援学校と、3つの学びの場ができることになる。

この環境は、各学びの場の児童同士の交流はもちろんのこと、教員同士が学び合える機会が生まれることになる。

小学校に通うどの児童もいきいきと学び合えることを目指す視点につながる。



インクルーシブ教育システムの構築への第一歩になると言えるのではないか。